

国際会議の経験を通して

生命体工学研究科生体機能 後藤 弘樹



学会参加にあたり

2014年8月24～30日に福岡大学で行われたIUMRS-ICA2014に参加しました。

今回、国際会議に参加して、自分の研究についてポスターでの発表を行いました。私の研究は、ネオジム磁石の保磁場を圧力印加により向上



させる事を目的としています。

発表で実感したこと

今回のポスター発表を経験して感じたことは2つあります。1つは英語です。国際会議での発表の際に当然ではありますが、英語での研究説明、質疑応答になります。研究説明に関しては、事前の準備もあり、何とか説明する事はできました。しかし、質疑応答になると、相手の話している英語を聞き取ることができても、考えていなかった質問に対してはうまく言い回しを思いつかず、答えられないという場面が、何度かありました。その時は、ジェスチャーや、図を用いての説明で、聞いてくださった方も何とか理解しようとしてくださったので、あきらめずに伝えようという意志で、うまく伝えることができたかはわかりませんが、乗り切ることができました。しかし、自分の考えを言語によってこうもう

まく伝えることができなかった事は今までの人生の中でありませんでした。今後このような場面は何度となくあると思うので、もっと自分の英語力を上げていきたいと思いました。

2つ目は、学会の雰囲気です。今まで、学会には何度か出させていたのですが、すべての学会が緊迫した中の雰囲気での発表がほとんどでした。今回の会議はいつもの学会発表に英語が必要という事で、いつも以上に緊張していました。しかし、会場についてみると、発表時間が夕方～夜にかけてということもあってか、とても和やかな雰囲気での発表になりました。また、食事・飲み物等の配付も行っていたため、予想以上にリラックスした雰囲気づくり、発表を行うことができました。

結論

今回の学会は、自分にとってよい経験を得ることができました。IUMRS-ICA2014ではいろいろな種類の研究を見ることができ、様々な研究について知ることができました。今回サポートをしていた明専会にはとても感謝しています。今回

経験したことを今後の研究や生活等に活かしていきたいと思えます。



謝辞

まず、この国際会議の参加にあたり、経済面で奨学金を援助していた明専会には本当に感謝しています。

また論文執筆及びポスター作成にあたり私に貴重な時間を割いていただき、ご指導いただいた美藤正樹教授、当日会場に来ていただきサポートしていただいた研究室の先輩、本当にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。